

# 出張報告

報告日 令和4（2022）年12月7日

会派名	公明党
報告者氏名	若井 恵子、真貝 維義
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	東北電力株式会社 女川原子力発電所視察
日時	令和4年11月25日（水） 9：00～正午
場所 （会場）	東北電力株式会社 女川原子力発電所（宮城県牡鹿郡女川町塚浜字前田1番）
調査項目等	原子力エネルギーの現状と課題について
概要	<p>PRセンターでの説明 女川原子力発電所は三陸海岸の南端にある牡鹿半島の中ほど、女川町と石巻市に立地している。敷地面積は173万㎡。原子力発電所2・3号機は各82万キロワットの出力で、1号機はすでに運転を終了している。2号機が再稼働に向けての新規制基準に沿った安全対策を行なっている。東日本大震災で震源に最も近い原子力発電所であったにもかかわらず、「地震の備え」「津波への備え」「電源や水の確保の備え」が機能したこと、そして日常の訓練により、安全に停止することができた。その後現地視察、安全対策工事①津波への備え（29mの防潮堤を800m）②地震への備え（耐震工事）③電源と水の確保（ガスタービン発電設備、地下軽油タンクの設置、淡水貯水槽、熱交換ユニット）④放射性物質を閉じ込める（窒素性ガス発生装置）⑤災害やリスクへの備え（防火帯、緊急時対策建屋の設置）などの説明を受ける。PRセンターに戻りVRによる発電所構内の視察。</p>  <p>女川原子力発電所 PRセンター外観</p>



発電所構内の安全対策の内容を映像で確認

所感等

- 東北電力女川原子力発電所1号機は、2018年12月21日に運転を終了して廃炉が決定している。2・3号機はそれぞれ82万5千キロワットで、2基の合計出力は165万キロワットである。東北電力は2013年12月27日に、女川原子力発電所2号機の原子力発電所の新規制基準適合性審査申請をし、2020年2月26日には、原子炉設置変更許可申請許可が原子力規制委員会より出ている。また、2021年12月23日に原子力規制委員会より工事計画認可申請認可が出ている。現在2024年2月再稼働に向けて安全工事が行われている。

女川原子力PRセンターにおいて、福島第一原子力発電所の事故を契機に制定された、新規制基準に対する女川原子力発電所の安全性向上に向けた取り組みについて説明を受けたのち、構内に入り工事の視察を行った。

東北電力によると、東日本大震災において女川原子力発電所は、震源地から最も近い原子力発電所であったが安全に停止をした。東日本大震災を越えられたのは、「地震への備え」「津波への備え」「電源と水を確保するための備え」が機能したこと、そして安全確保が正常に機能した理由は、日々の訓練によるものとの説明があった。

また、万一の事故の際に、その進展段階に応じてそれぞれ対策を講じる「深層防護」と、各段階の対策に二重三重の厚みを加えること（多様化・多重化）を基本的な考えとし、重要な安全機能を設備面・運用面の両面から強化し、新規制基準適合に満足することなく、自主的かつ継続的な安全性向上に取り組んでいる。

東北電力の安全、安全文化に対する取り組みを評価する。（真貝）

- 女川原子力発電所を初めて視察させていただいた。この発電所は三陸海岸の南端にある牡鹿半島の中ほどに位置している。三陸復興国立公園に指定されており、風光明媚な場所にある。東日本大震災において震源地に最も近い原子力発電所でありながら、運転中であった1号機、3号機も含めすべての原子炉が安全に自動停止し、「止める」「冷やす」「閉じ込める」をスムーズにおこなえた。さらに新規制基準に対応して基準値振動の見直しを580ガルから1000ガルに見直し耐震工事を行なっている。また最新の知見を取り入れ、

	<p>津波の想定を 23.1m と評価したうえで 29m の防潮堤の工事を行なっていた。想定以上の安全対策を行なっていることに安全文化の意識が感じられた。また 1 号機の運転終了に対しては運転期間が 40 年未満であるにもかかわらず、原子炉の型が古く建屋も狭い、1 号機の安全対策にコストをかけることは断念し、廃炉措置に舵をきったことは、コストも踏まえての判断であるが、基本的には原子力を安全に動かすための会社の安全最優先の精神が生きていると感じた。(若井)</p>
--	---